

調査目的

茨木市の中心部は古くは茨木城の城下町として、江戸時代初期の一国一城令による廃城後は商いの中心である在郷町として栄え、明治初期の官設鉄道（現在のJR東海道本線）の敷設や昭和初期の新京阪鉄道（現在の阪急京都線）の敷設とともにまちが拡大してきました。高度経済成長期以降に中心部は更に発展しましたが、現在でも昔の面影を残す町家が多く残っています。

市では、これら中心部に立地する町家を歴史的な地域資源と捉え、良好なまちなみの形成や中心市街地の魅力向上へつなげていく可能性についての検証を進めるため、平成21年に町家調査を実施しました。

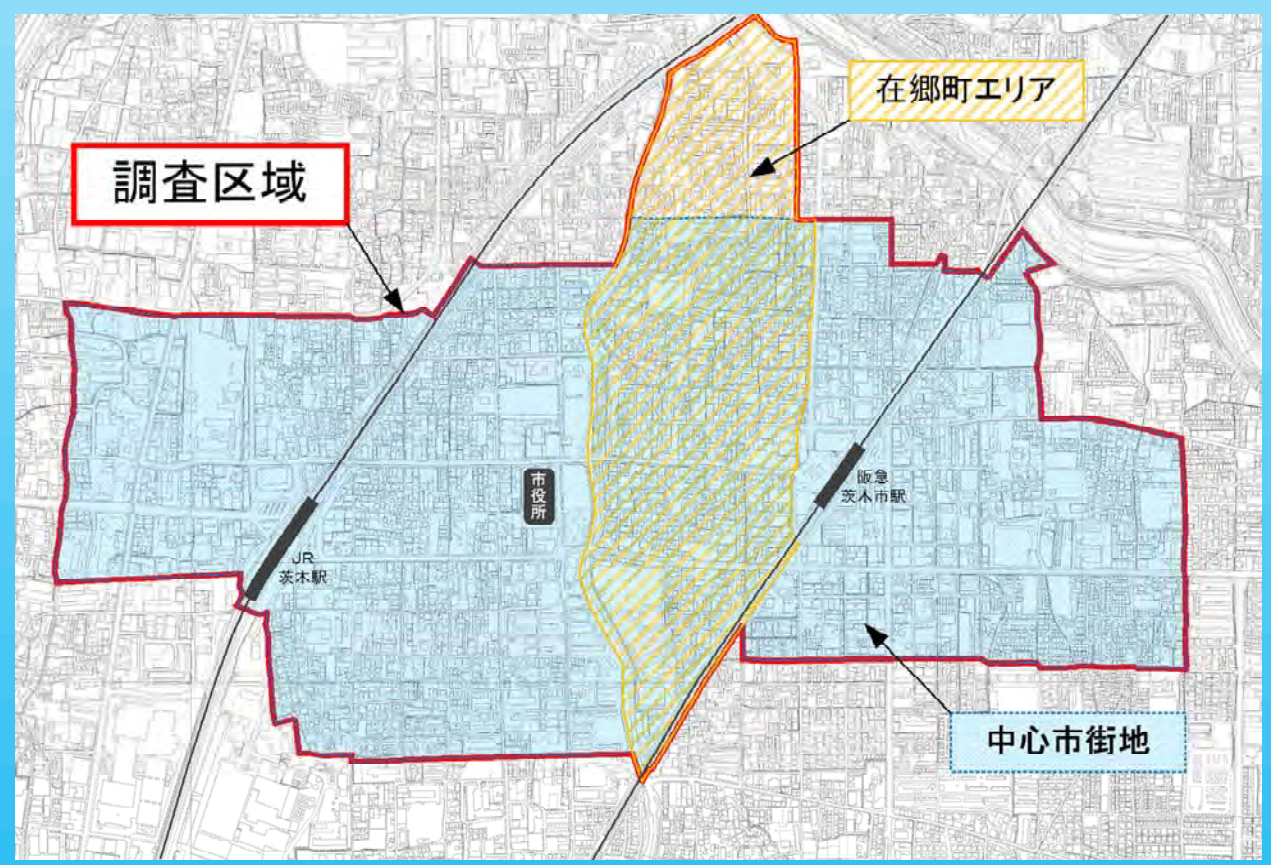
町家調査は、どのような町家が、どの程度、どのように分布しているかを把握し、その結果を踏まえ、町家の保存・活用のあり方を検討することを目的としています。

調査は道路上からの外観調査で、平成21年10月から11月の5日間、市内在住の建築士と広報で募集した市民を中心とした調査員の協力のもとで実施しました。

市中心部の28町丁の区域にある昭和31年3月末日以前に建てられた木造建築物を調査対象とし、町家の存在状況を確認し、建物の外観や伝統的意匠についての確認を行いました。

調査区域

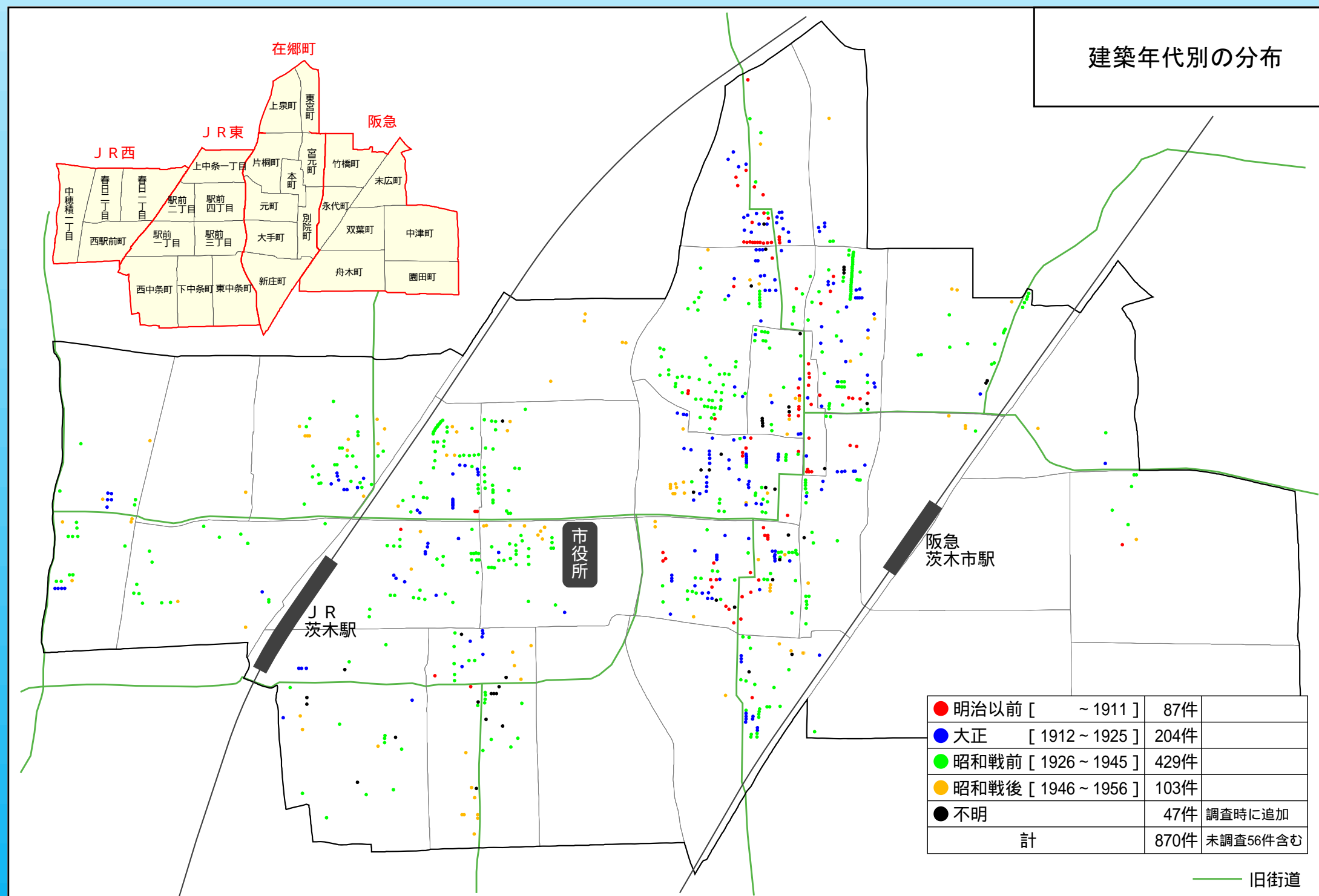
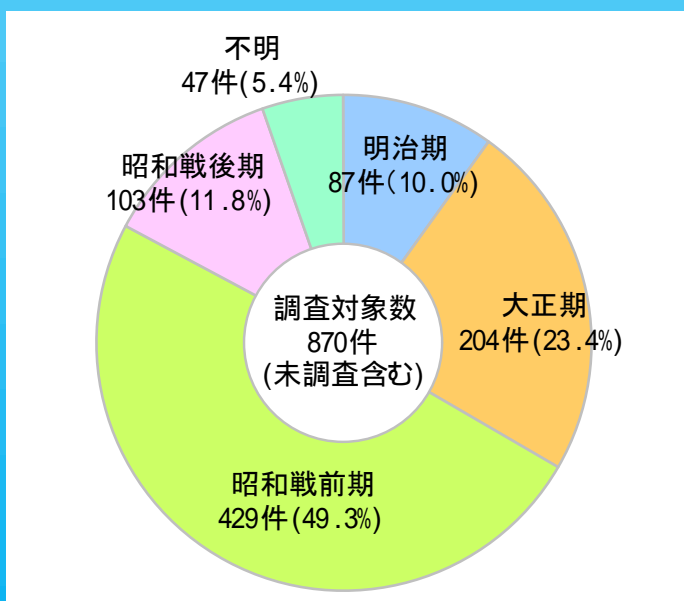
調査区域は、平成16年に本市が策定した「茨木市中心市街地活性化基本計画」で位置づける「中心市街地」の区域を基本に、中心部の歴史的背景を鑑み、在郷町エリアを含んだ範囲としました。



建築年代別の分布状況

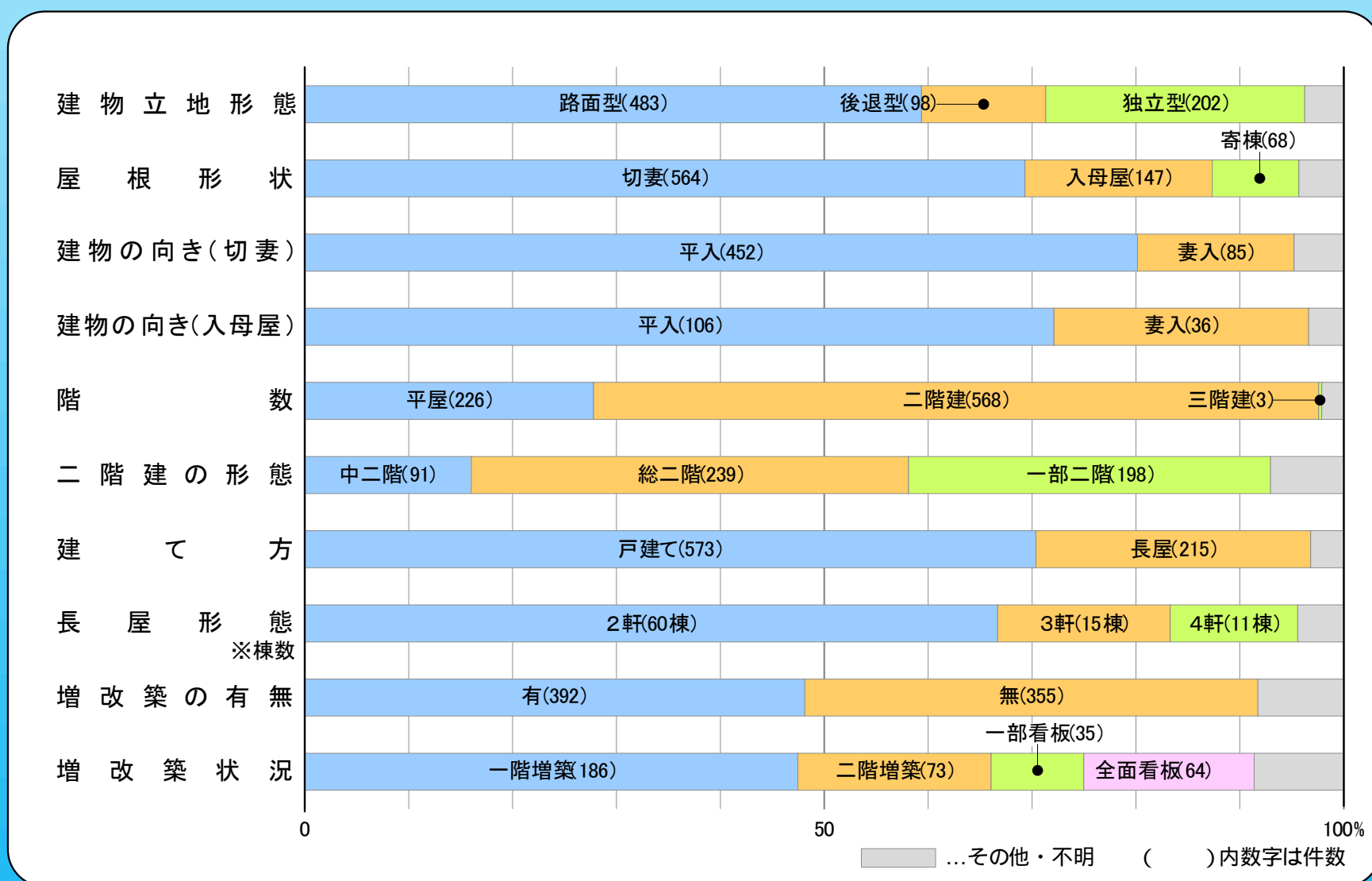
現地調査の結果、調査区域内には昭和31年3月末日以前に建てられた木造建築物が870件確認されました。

年代別で見ると、昭和戦前期（1926～1945年）が429件と半数近くを占め、次いで大正期（1912～1925年）、昭和戦後期（1946～1956年）、明治期（～1911年）の順となっています。



外観調査の結果－1 <立地状況・構造・形態等>

外観調査では、目視により1件ごとに建物の状況、構造、仕上げ材といった約30項目について確認しました。以下に、外観調査で確認した各項目の結果をグラフ化して整理しています。
 ※各項目の内容については、「調査ハンドブック」に解説を付けています。

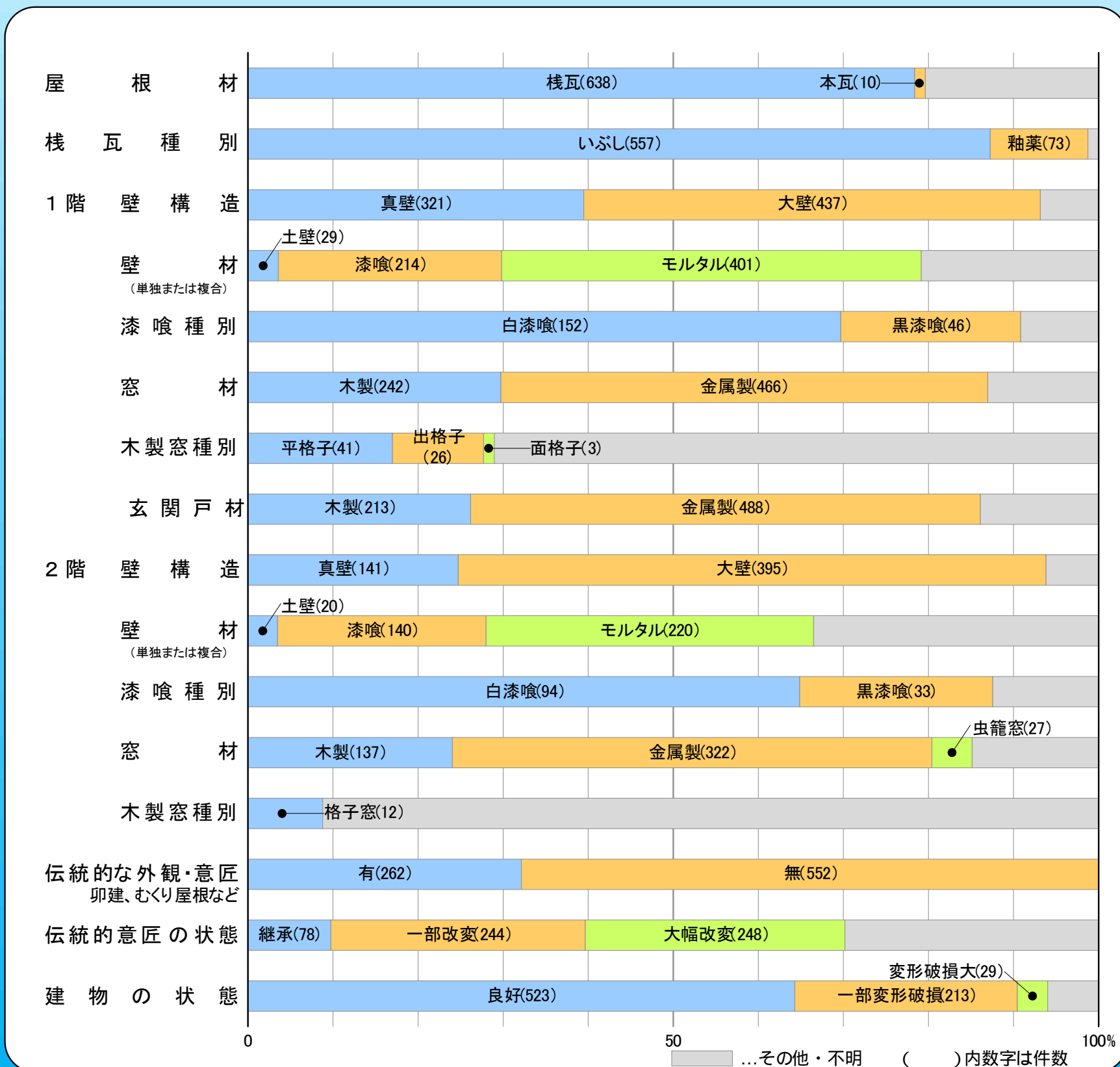


- 直接道路に接して建っている「路面型」が6割程度。
- 「切妻屋根」が7割程度、「入母屋屋根」が2割弱。
- 切妻屋根の場合、「平入」の建物が8割程度。
- 二階建ての場合、4割程度が総二階。

【調査用語の説明】

建物立地形態	路面型…道路に直接建物が接しているタイプ 後退型…道路と建物の間に庭などがあるタイプ 独立型…建物に対して敷地が広く建物の周りに庭などがあるタイプ
建物の向き	切妻屋根や入母屋屋根の建物の道路に対する向き 平入…屋根の面が見える軒側に玄関がある建物 妻入…屋根が山形に見える妻側に玄関がある建物

外観調査の結果－2 <外観・意匠>



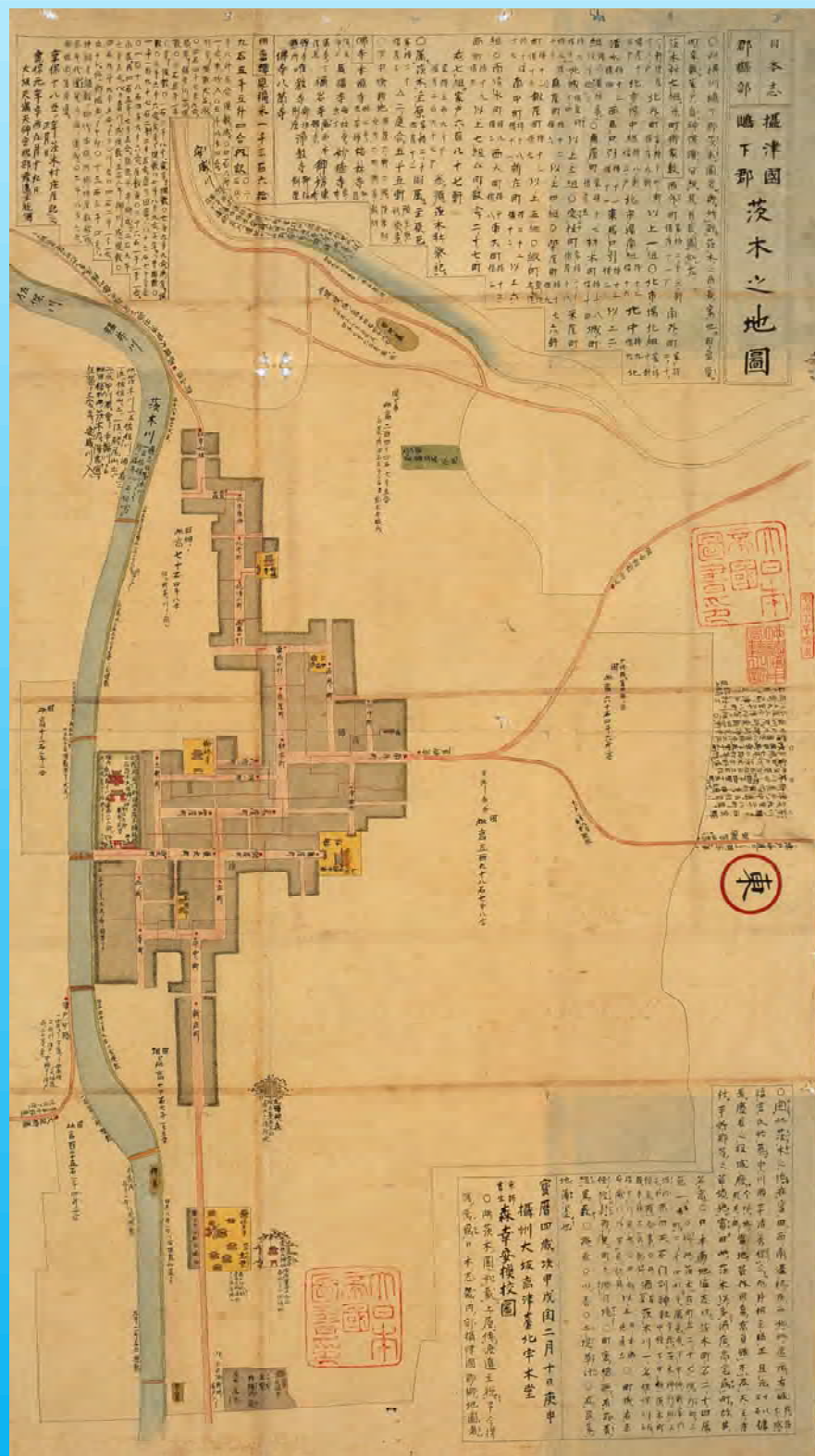
- 8割の建物が瓦葺き。
- 1階の壁構造が大壁の建物は5割、真壁は4割程度。
- 1階の壁材は5割がモルタル系。土壁、漆喰塗は3割程度。
- 1階の窓材、玄関戸の6割弱が金属製。
- 2階の壁構造は7割が大壁。
- 伝統的意匠を継承している建物は78件で1割弱。一部改変、大幅改変はともに3割。
- 建物の状態は6割強が良好。

【調査用語の説明】

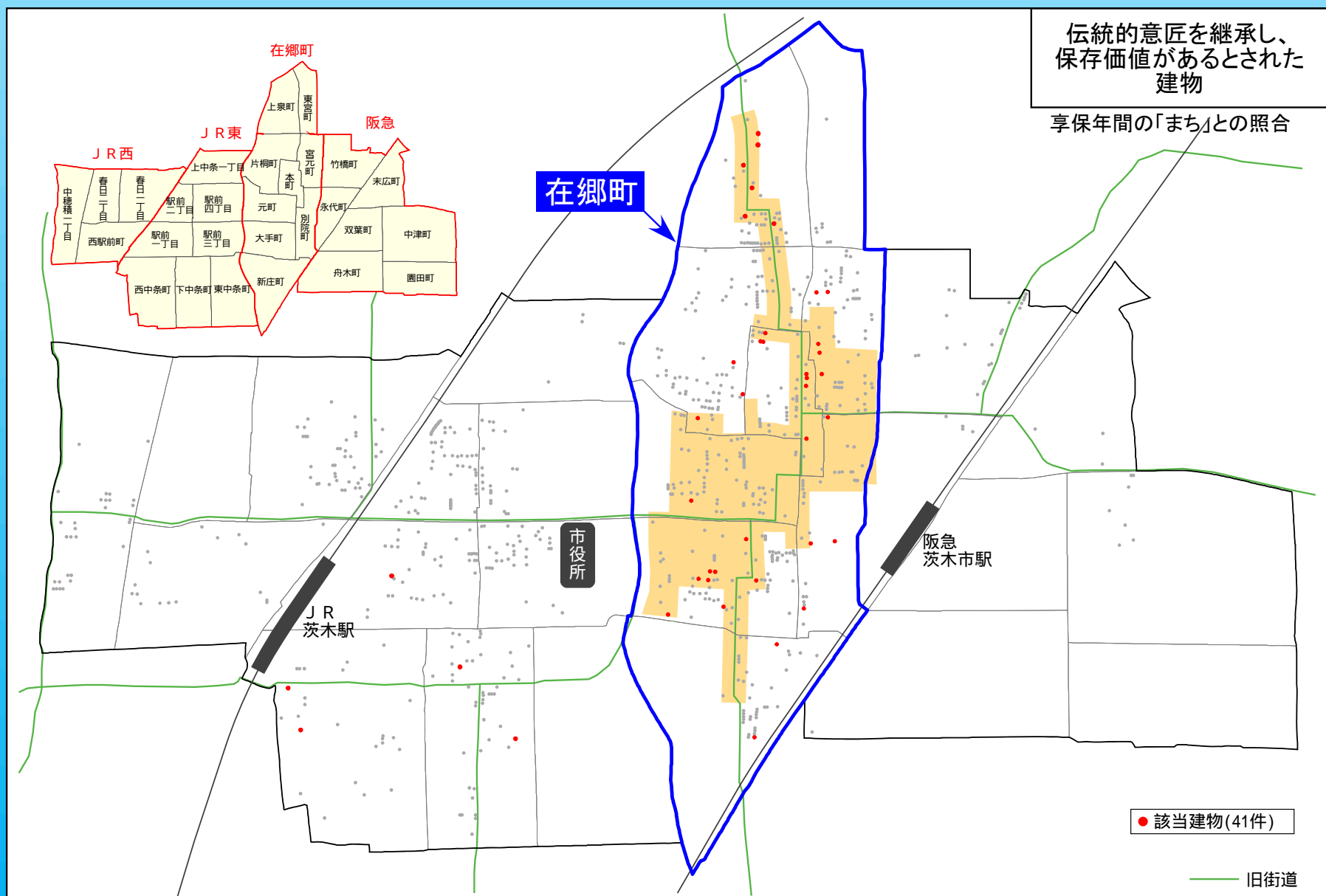
壁構造	真壁…柱や梁が表に露出している壁の仕上げ。伝統的木造建築物に多い 大壁…柱や壁が壁材で覆われ、表から見えない壁の仕上げ
伝統的意匠の状態	継承…伝統的な意匠による改修が行われている 一部改変…改修により、伝統的な意匠から一部が改変されている 大幅改変…外見上、伝統的意匠の存在が確認できない

伝統的意匠を継承し、保存価値があるとされた建物分布と歴史的背景

伝統的意匠を継承しているなど良好な特徴が現れている町家として、41件を抽出しました。これらのうち、36件が在郷町に存在しています。茨木城廃城後の享保18年（1733年）のまちが描かれた絵図と調査結果を照合すると、町家の特徴が現れている建物の大半が、享保年間のまちの中にあることがわかりました。



享保18年・摂津国嶋下群茨木之地図



町家の特徴が現れている建物（一例）

